

第4回多摩市自治推進委員会 要点記録

平成23年10月24日(火) 18:30~20:20

多摩市役所3階 特別会議室

出席者：山内委員長、金副委員長、加藤委員、今委員、柴田委員、中山委員

事務局：企画政策部長、企画課長、企画調整担当主査、企画課主事

審議：今後の取り組みについて

はじめに事務局より新任職員の挨拶があった。

委員長 前回に引き続き、第4期の検討するテーマについて意見交換を行いたい。前回、私からコミュニティ自治を進めるにあたり、制度を支える「人」について議論したらどうかという提案をさせていただいた。これは、制度を作っても、そこに参加する「人」がいないと意味がなくなってしまうということがあるからである。コミュニティ自治のあり方について、「何らかの新たな仕掛け」つまり「仕組み」の部分については第三期ですでに検討して一定の方向性が出ている。「人」の議論に移る前に、すでに一読されているとは思いますが、第三期自治推進委員会から提出された「コミュニティ自治推進に向けた検討報告書」について、正式に意見交換していなかった。コミュニティ自治のあり方を検討する上で、第三期の報告書について共通認識を持っておいたほうが良いかと思うので、おさらいという意味も含めて、この場で意見交換をしたと思う。まず事務局から改めて報告書の概要の説明をお願いしたい。

事務局 第三期自治推進委員会ではニュータウンという多摩市の特性から短期にコミュニティが形成された経緯があるなかで、近年急速に進行した高齢化などの問題によりコミュニティ自治の形成について検討しようという方向性に至った。青少協、社協や自治会、コミセン等地域で活動している団体に課題や現状についてヒアリングを行った。地域活動の担い手が高齢化して、次の担い手が育成できていないということや団体が認知されていないという課題が浮かび上がった。住民自治、コミュニティ自治のために従来の組織だけでなく、新たなコミュニティに関する何らかの組織が必要であるという意見が出てきた。それにあたって行政で地域ごとに委員会を作ってほしいとするのではなく、まず住民の意識の醸成を図る。第一段階ではコミュニティ懇談会という組織を設けて、各地域の問題を共有するという提言を頂いた。次の段階でコミュニティ会議を設置する。地域割については総合計画の10地区のコミュニティエリアが適当である。行政から一定の独立した組織が良い。公募、立候補、既存団体からなどの委員を取りまとめて、地域活動経験の少ない方も関わられるようにとの提言を頂いている。地域の課題を解決する役割を担い、自分達で解決できないものは行政にあげるのが良い。報酬は若干の金銭の支給があっても良い。従前の補助金という枠にとらわれず、予算の執行権、編成権を与えてはどうかという意見を頂いた。コミセンに事務局を設けて、専属の事務員を雇う場合には有償でまかなう。段階を経て、コミュニティ会議を設置するという提言をいただいた。

委員長 前期委員であった委員からも議論になった点等説明をお願いする。

○委員 各団体が連携して、新たな課題を解決していく。一つのかたちとしてコミュニティ会

議を提言した。各団体が持っている特徴や個人の特徴を生かして、緩やかな連携のある組織をつくる。新たな組織をつくって、新たな人材を育成する。行政だけに頼らずに、若い世代を巻き込んでいく仕組みをつくりたい。自治会を無くすのではなく、自治会の特徴を生かして、従来の団体の隙間を埋めるのがコミュニティ会議である。

委員長

どのように人を参加させて、地域の人材として養成していくか。その場にどうやったら人が参加するか。

○委員

具体的な策はそのうち議論で出てくると思う。敷居の低い会議にする。ただ人が来れば良いのか。そうした点も含めて大まかな議論が見えてくると、より良い意見が出る。若者が参加し難い点の一つは、地域の長などの意見をずっと聞かないといけないことなどが敬遠されているらしい。地元で長く暮らす人の意見を聞くことは、祭りなどを開催するうえで役立つかもしれないが、それが参加し難い原因になっているかもしれない。

委員長

現場との接点を持っている、委員の方はどうか。

○委員

コミセンの運営に関わっているが、人材発掘に苦労している。すぐ辞める人が多い。自分の利益になることはやるが、ボランティアはやり難い。狭い地域なのでトラブルを敬遠する。事業をやるのに人集めで苦労する。

○委員

地域でグループをつくる活動をしているが、むしろそれよりも市域やニュータウン全体でやった方が良い。地域だと自分の生活に関わってくる、地域でやるよりも広いエリアでやりたいという人が多い。世代の波があるが、30、40歳代で最近は何か地域で活動したいという人が増えてきている。そこをうまくコーディネートしないとけない。現状は噛み合っていない。地域活動の経験が無い人がやって、失敗することを許容できるような組織をつくる。

○委員

地域委員会の結成を目処に話してきたが、コミュニティ自治について考えたところ、これに勝るものはないと思う。コミュニティ会議は早めにやった方が良い。各団体の顔合わせの場をまず設ける。新しい層の掘り起こしは難しいので、まず既存の団体が話し合う場を設ける。地域委員会を結成する前にやっても良い。問題を出してから地域委員会に持って行っても良い。社協はどういう形で関わるか。10のコミュニティエリアをどうするのか。まずはコミュニティ会議から始める。

委員長

永山公民館の現場で、懇談会などをやってみて、実態はどうか？

事務局

多摩市の市民活動団体数は八王子市、三鷹市等と比べても遜色ない。市民一人あたりの組織率も高い。ハロウィン、永山フェスティバル、さくらまつり、などのイベントも市民の力で積極的に実施している。公民館の利用法など、当事者として関わる懇談会等への参加の意識は強い。だがそれがなくて、まず集まってということになると人は集まらない。議論が好きな人は集まるが、各団体のメリットなどを掘り下げないと人は集まらない。

委員長

コミュニティ懇談会で何を議論するか。誰が地域課題を発見するか。

○委員

前期委員会では無作為でアンケートを取って意見を吸い上げるという提案もあった。

○委員

各団体の利益が無いと、コミュニティ会議を否定する人もいる。参加しない団体もいるかもしれないが、まず実施する。どういうメンバーを選抜するかということも含めて決める。

- 委員長 10 地域それぞれの課題がある。住んでいる人、住居形態が違う。それぞれの地域で無作為抽出を行う。
- 委員 無作為抽出では余程意思のある人じゃないと出てこない。こういうものに関心ある人しか手をあげない。
- 事務局 無作為抽出は他の審議会、ワークショップ等でも行っている。広報等では気づかないこともあるのでありがたいという意見もある。
- 委員長 第1回での市長の話は阿部市長の公約の話があった。第三期のテーマは阿部市長が公約として掲げる前から検討していたことである。コミュニティ会議も仮称である。
- 事務局 第三期委員の報告書は地域委員会構想にも活かす。しかし地域委員会をやるということに捕らわれすぎないで議論いただきたい。
- 委員長 東北の被災地の情報が入ってくるが、コミュニティの崩壊が起きている。仮設住宅は抽選で人が集められるので、まさにニュータウンと同じ。公団の抽選で住区に来る。あらかじめ地区が整備されているので地域に対する関心が薄い。電波障害などの問題、課題は特定の地区に絞られる。自分たちで解決しないといけない課題がある。行政は個別に対応できない。地方分権で地域の課題を解決する必要が出てくるが、生活で直面する課題にどう対応するかという仕組みが求められている。参加の仕組みがあっても人が集まらないといけない。第一段階で、人が集まるようにするにはどうすれば良いか。
- 委員 市長が市民との対話会をやっているが、人が集まらない。テーマが防災ならば集まるが、コミュニティ懇談会は集まらない。まずは既存団体でやってから市民が入るとするのは良い方法。無作為抽出で集まるかどうか。
- 委員長 既存の団体は動員をかければ集まる。それがいわゆる地域の自治の処方箋になるか。
- 委員 第1回の資料7「第三期自治推進委員会からの引継ぎ事項について」には第三期ではコミュニティ会議の具体的な実施方法について議論が分かれたとある。どういう人が実務に携わるか。コミュニティ自治の運営能力がある人をどう選抜するか難しい
- 委員 今まで既存の団体に参加し難かった人が参加できるのがコミュニティ会議。
- 委員 コミセンではサークルをつくる際に、やり方が決めてあった。1年経たら手を離れて独立したサークルとする。コミュニティ会議も同じで最初は行政が声をかけて、人を集める。
- 委員 コミセンの運協の方にヒアリングしたが、新たに委員を引き受けるのは負担であるとのこと。
- 委員 専従のスタッフが必要。実質的な事務は各コミュニティ間の折衝など時間がかかる。
- 委員長 役割や報酬についてはコミュニティ自治推進に向けた検討報告書の22から25ページに書いてある。事務局は必要である。行政経験のある人などを嘱託や非常勤で置くなどいくつか段階を経て実施する。報酬がないと人は動かない。
- 事務局 コミセンの運営は指定管理者。コミセンの運営協議会は無報酬、スタッフは有償である。
- 委員 市民はそういうことを知らない。こういう人を募集しているということを見せる。ボランティアで募集しているといっても敬遠される。具体的に提示して募集する。
- 委員 今も実際にやっている。若い人が来るような仕組みが必要。

- 委員長 組織ということを考えずに、各問題について募集する。全部を処理するというのは重荷になる。テーマごとに協議しても良い。昔ながらの地域共同体、通過儀礼としてのお祭りや消防団などの組織作りは多摩ニュータウンでは難しい。
- 委員 自治の本旨、自治条例などを見るとそれを無視することはできない。自治会、自治連は古い組織だが外せない。新しい人を入れてやっても良いが。
- 委員 地域の長老の話を書く機会を別に設ける。古い自治の形も良いものは残していくべき。昔からの知識を持っている人の意見は別の形で聞く。
- 委員長 担い手となる人をどのように見つけて担ってもらうか。
- 委員 有識者が関与しないといけない。行政に頼るのも良いが、本当は住民の自治が原則。リーダーを養成しないといけない。
- 委員長 やる気のある人を集めるのも難しい。女性ならこういう課題、若者ならこういう課題、リタイアした人ならこういう課題というように働きかける対象を作ってやる。介護に若者は関心ない。イベントなら若者がノリで動く。多摩市の近隣大学、サークルと連携して地域問題を解決する。若者同士が呼び水になってきっかけづくりになる。自分達が何をやって良いか気付いていない。
- 委員 共感を得ないと人は集まらない。
- 委員長 大学の学生にはとにかくボランティアの現場に行くのが良いと言っている。経験して見てくるだけで勉強になる。
- 委員 理念をただ掲げても絵に描いた餅である。大学から学生を送り込まれる現場にとって迷惑になることもある。
- 委員長 自治体にインターンシップで出向くことや、中学に教育実習などで出向くことがある。何回かトラブルがあった。ハードルを高めなくて人材を集める。コミセンなどで活動してきた人が最初は活動してほしい。
- 委員 運営協議会の人たちが花壇作りの作業をしているとコミセンに来所される方や行き交う人と顔見知りになって、地域の課題が挙げられる。
- 委員 地域だけで対応できない課題はどうするか。
- 委員 地域だけで対応できない課題は市にあげていく。
- 委員 大きな問題は市、小さい問題は地域で対応する。小さい子どもに虐待している場合など、どこに話を持っていけば良いか分からない。
- 委員 服が不自然に汚れていたり、年齢の割に体の小さい子でお菓子などをほしがる子などいたら民生委員に連絡するなどのルートはある。
- 委員 児童虐待は家の中のことであり、行政に持っていくとたらいまわしになることがある。ここに持っていけば良いという部署や連携があれば良い。
- 委員 コミセンには子どもたちが放課後集まる。かつて夜9時すぎに子どもが1人でコミセンにきたことがあるが学童に来ている子だったので学童の先生に連絡するなど対応をしたことがある。
- 委員 そうした我々が気づかないような生活に密着した課題について、コミュニティ会議によって浮かび上がってくる。
- 委員 年2回地域連絡会として自治会の問題について話し合っている。1つの小さなコミュニティ会議という形。利用しているサークルの懇談会である。問題が解決されなけれ

ばコミュニティ会議をやっても意味が無い。みんなが力を合わせて解決するという問題と、住民の意思が二分される課題がある。

○委員 地域それぞれの課題。同じマンションでも世代が違う。子どもがコミュニティのキーになる。既存の団体を活性化して地域の課題を調整していく。そこの担い手をどうするか。

○委員 スタッフの力と、強いリーダーシップ。人望のある人が上に立つ方が良い。
委員長 コミセンなどでは人材をどうリクルートしているのか。輪番制の管理組合とコミセンは違う。

○委員 私は最初生協の活動をしていた。PTA 活動、学童、その流れでコミセンの運営協議会に加わった。人材を育てても他に引き抜かれていく。

○委員 子どもと一緒に劇を見る会の活動をしていた。単純に子どもと一緒に劇を見ようと思った。会を担っていた人が転勤でいなくなって結果的に担うことになった。何をするにしても事務局は大切。楽しい経験を一緒にして、大変になっても仲間意識があれば乗り越えられる。会の運営のための会議には人が来ないが、お茶を飲みましょう、ケーキをつくりましょうなどと誘うと来る。楽しい部分がないと辛い。

○委員 男性は会社で人を使ってきた人も一緒に活動してもらおう。そのギャップを乗り越えた人が活動していく。

○委員 人の良いところを見つけて、活かしていく。地域のなかでつながっていくときに、良いところを引き出して、連携していく。それがリーダーに必要な素養。

○委員 少し違う気がする。リーダーというのはだめな時はだめ、できない時はできないと言える人ではないか。リーダーがまとめていかなければいけない。しっかりとした意思と意見と公平さを持った人。お互いに褒め合って良いところを伸ばしていかないとけない。

○委員 喧嘩して大事になると地域で住めなくなってしまう。
委員長 コミュニティ懇談会から会議へという流れが認識できた。参加してもらう人はどうするかということ。参加してもらおう仕掛けをつくり、組織運営に寄与できる人を見出して育てていく。そのうえで○、○両委員の体験は示唆に富む。次回はどう人を集めるかの具体策と見極め。楽しみながら、解決していきながらという意見、議論を深化させたい。

○委員 12月4日、自治連の阿部市長との対話会がある。コミュニティ会議、地域委員会について、話せることがあれば市長の方で話して欲しい。

委員長 せっかくの機会なので話していただきたい。

11月24日の開催である。12月の開催日は、27日に決定する。